

(4) 管理・運営への要望

1) 清掃管理

清掃管理では、75.8%が「現状で十分」となっているが、10.1%を占める「回数を増やす」は、すべてトイレ清掃を対象としており、利用者数の多い公園での清掃頻度の増加が要望されている。簡易トイレなど、子供では使いにくい形状のトイレについて、「施設が改善されることにより綺麗に使ってもらえるようになる」という意見もある。

「清掃 その他」では、タバコの吸い殻、ペットの糞の清掃への要望がある。しかし、この状況については、清掃作業よりも利用者マナーへの不満を言及する声もあり、利用マナー向上のための取り組みに対する要望ともいえる。一方、「落葉を掃かないでほしい」など、自然物である落葉に対する配慮を要望する意見もある。

2) 樹木等植物の維持管理

樹木等の管理は、69.3%が「現状で十分」と回答している。「樹木を大きく育てる、多くしてほしい(9.0%)」と回答した人の多くが、木陰や豊かな自然の大切さ指摘している。

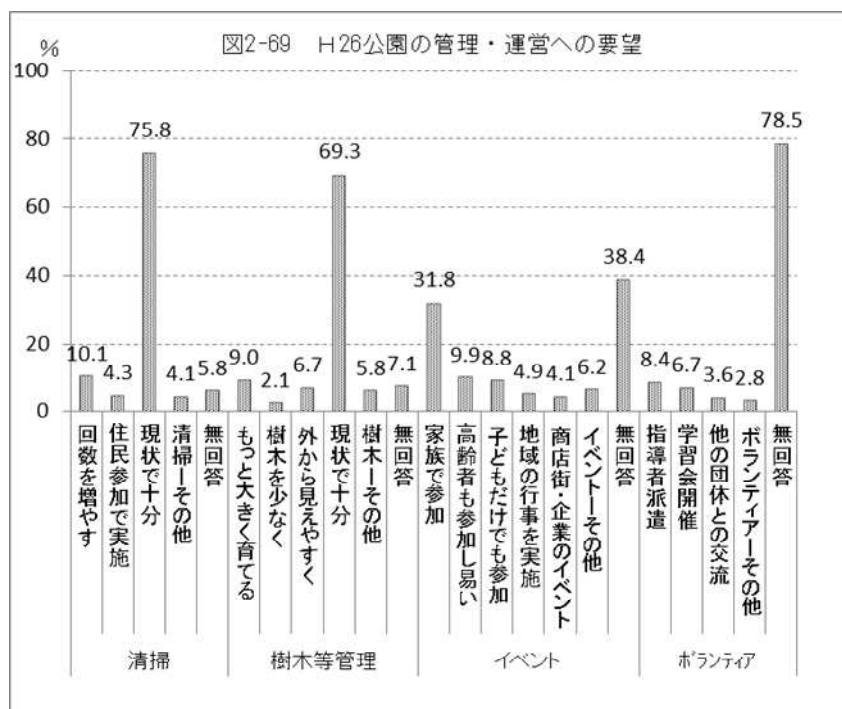
一方、「樹木を減らして欲しい(2.1%)」と回答した方の中には、防犯面からの見通しの確保を要望する声もある。

草地については、雑草の除去や蚊が発生するような藪の除去を要望する意見が多くなっている。芝生については、開放期間の拡大が主な要望となっている。

3) イベント

イベント事業への要望では、「家族で参加できる」が31.8%で最も多い。次いで、「高齢者も参加し易い」が9.9%、「子供だけでも参加」が8.8%であり、誰もが参加できるイベントの開催が求められている。

一方、「公園には安らぎの場を求めてくるので、人が多く集まるイベントは避けている」との意見もある。

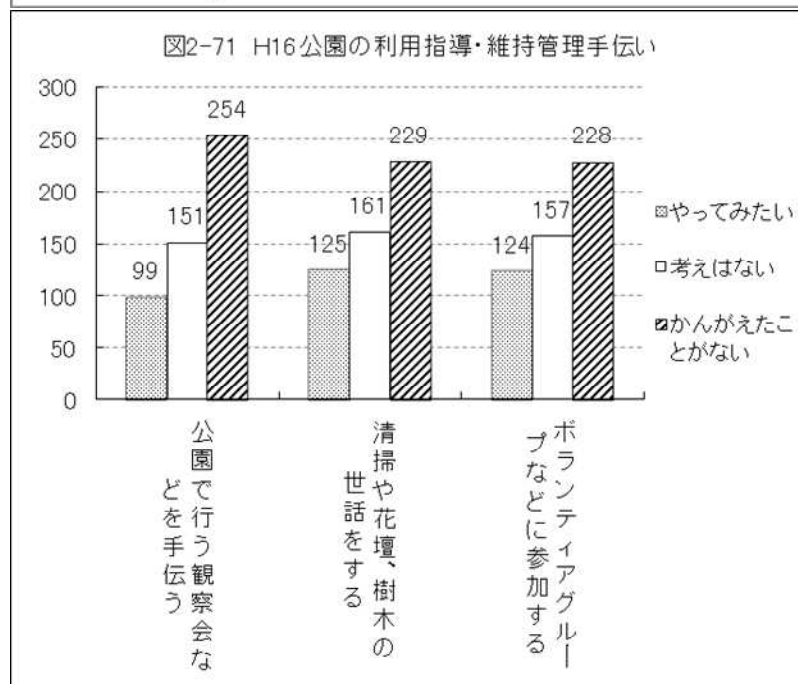
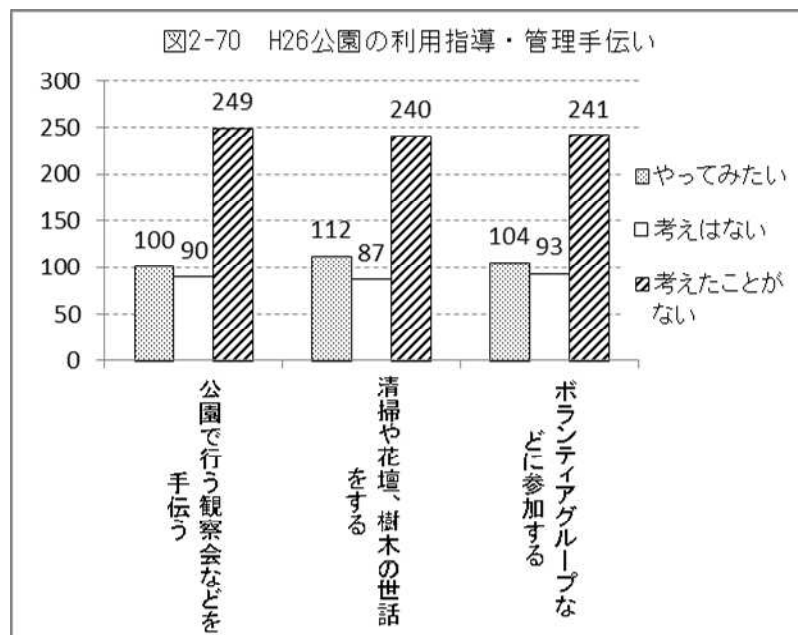


4) ボランティア活動支援

ボランティア活動への支援は、「指導者派遣」が最も多く 8.4%となっている。ボランティアに関する要望を回答した人は全体の 21.5%で、無回答が 78.5%となっているが、これは、実際にボランティア活動を行っていない人が少なかったため、具体的な要望がなかったことが要因と考えられる。

(5) 公園の利用・維持管理等の手伝い

前回は、「やってみたい」の割合が最も少なくなったが、今回調査では、否定的な考えといえる「考えはない」が最も少なくなっている。また、できない理由として「今、子供が小さくできない」「勤めがあってできない」など、今後の参加の可能性を示す回答もあった。



(6) 施設要望

1) 項目選択

前回と同様に「きれいなトイレが欲しい」が149回答(32.0%)で、最も多い。次いで「草はらの広場が欲しい」が122回答(26.2%)となり、前回2番目に回答の多かった「ベンチを増やす」が4番目の98回答(21.0%)となっている。さらに、3番目には「外から見通しを良く」が102回答(21.9%)となっている。

きれいなトイレ

清掃については、一定の評価を得ているが、更なる施設管理が求められている。施設自体の改修等が求められていることも考えられる。

草はらの広場

前回の「運動のできる芝生広場」から、変更して入れ替えた「草はらの広場が欲しい」が、多くの要望としてあげられている。「草はら」は、東山公園(既存部)、中目黒公園、駒場野公園(拡張部)など、近年整備された2ヘクタール以上の近隣公園レベルの大きさ公園で設置されたことで、利用する機会が増えたことにより、要望が高まっていると考えられる。

外からの見通し

「外からの見通しを良く」への要望は、前は3.5%から21.9%に増加している。これは、防犯意識への高まりと予測され、外周道路等からの見通しの良さ、死角の少ない施設配置や植栽管理などへの要望が高まっていると考えられる。

ベンチの増設

ベンチ増設への要望は、前回調査から継続して高く、休憩を目的とした公園の利用ニーズは依然として高いものと考えられる。

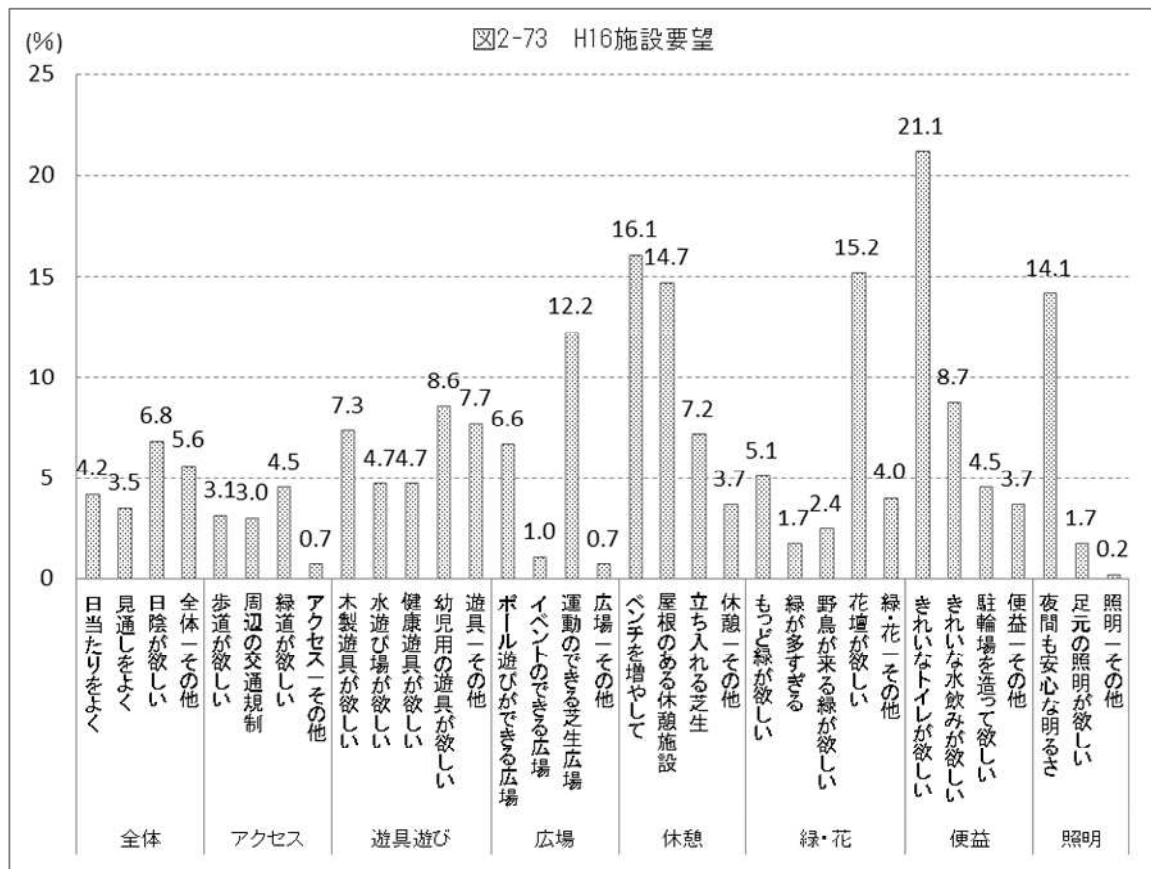
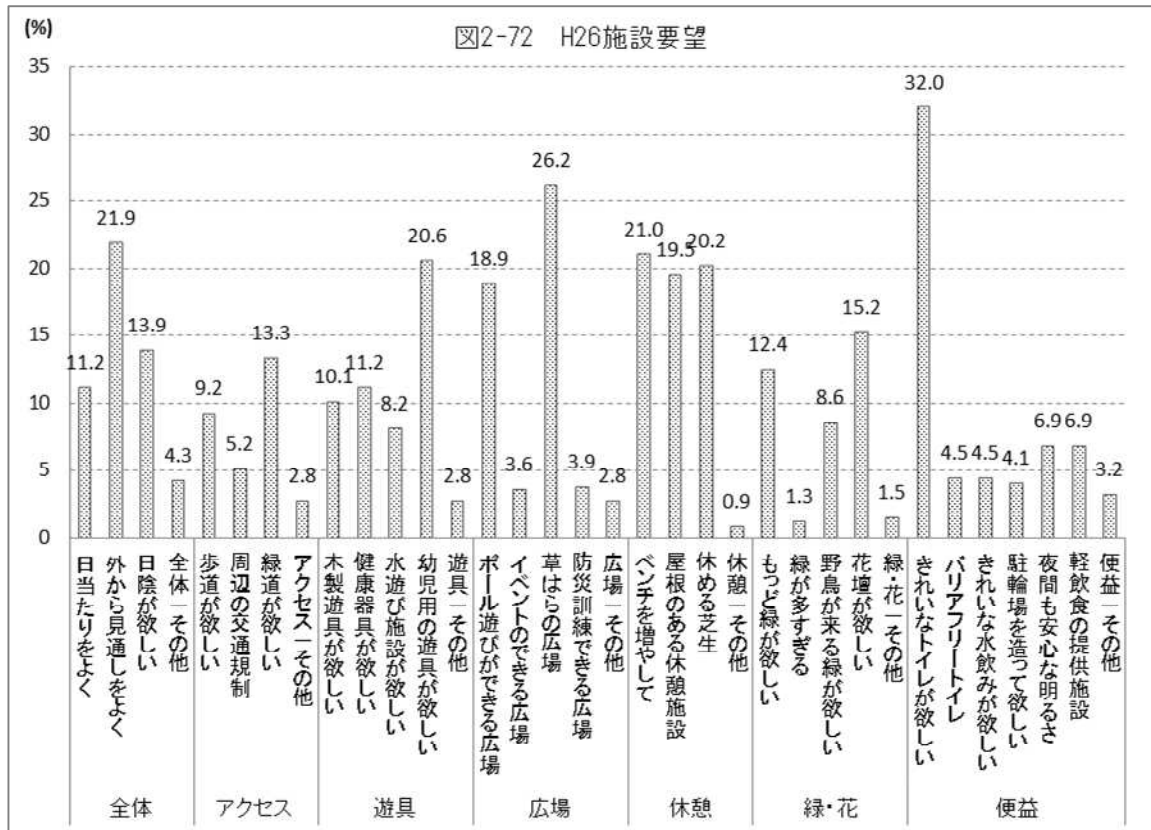
幼児用の遊具

幼児用の遊具への要望の増加は、就学前児童が安全に利用できる幼児向け遊具のニーズが高まったことが要因と考えられる。

表2-53 施設要望の前回調査との比較・推移

H16 (N:573)		➡	H26 (N:466)	
・きれいなトイレ(121)	21.1%		・きれいなトイレ(149)	32.0%
・ベンチを増やす(92)	16.1%		・草はらのひろば(122)	26.2%
・花壇が欲しい(87)	15.2%		・外からの見通しを良く(102)	21.9%
・屋根のある休憩施設(84)	14.7%		・ベンチを増やす(98)	21.0%
・夜間も安心な明るさ(81)	14.1%		・幼児用の遊具(96)	20.6%

* H26年度の回答では複数回答が多かったため、割合も増えている。



2) 自由記述

便益施設の改善

トイレのバリアフリー化など、子供や高齢者でも利用しやすい施設の改善を望む内容が多くあげられている。

また、ゴミ箱、吸い殻入れへの要望が多く、利用マナーの向上とともに、施設設置での対応が求められている。

遊具の適正化

「幼児用遊具の設置」に対する要望が多くなっている。また、小学生遊具との設置場所の分離や、小規模公園への特徴的な遊具設置による複数公園の使い分けなどの意見・提案も出されている。

一方、小学生以上の子どもが楽しめる遊具が減っているという意見もあり、遊具や公園に対する要望が多様化してきている。

特徴を持った広場の整備

自由に使える広場、ボール遊びのできる広場、生きものとふれあえる広場などを要望する意見があり、多様な活用が可能な広場設置の要望が高まっていると考えられる。

新たな施設と利用マナー

新たな施設としては、前回調査でも寄せられたドッグランへの要望が多い。一方で、犬の散歩でリードを付けての利用者数は減少している（P22表2-7「利用内容別利用者数」参照）が、マナーが守られていない、糞の始末の不備など、現状への不満は依然として多い。ペットとともに公園を利用したいという要望に応えるためには、利用者自身のペットマナーの向上が求められていると考えられる。

(7) 希望する公園

1) 希望する公園（項目選択）

前回調査と同様に、「ゆっくりくつろげる」が最も多く、35.8%となり、次いで「いきものを育む緑、池」27.9%、「幼児が遊びやすい遊具のある公園」24.0%となっている。

この内容は、施設要望とも重複する内容が多く、「ゆっくりくつろげる」という休息・散歩機能が最も求められている。

次いで、動植物とのふれあいへの要望が高まり、見るだけの花や花壇よりも、動植物と共生している自然にふれられる公園であることや、「木登りや、どろんこ遊び」など、能動的に自然に親しむ活動ができる公園が望まれていると考えられる。

一方、施設面では、幼児向けの遊具について、高い要望が見られる。

表 2-54 希望する公園の前回調査との比較・推移

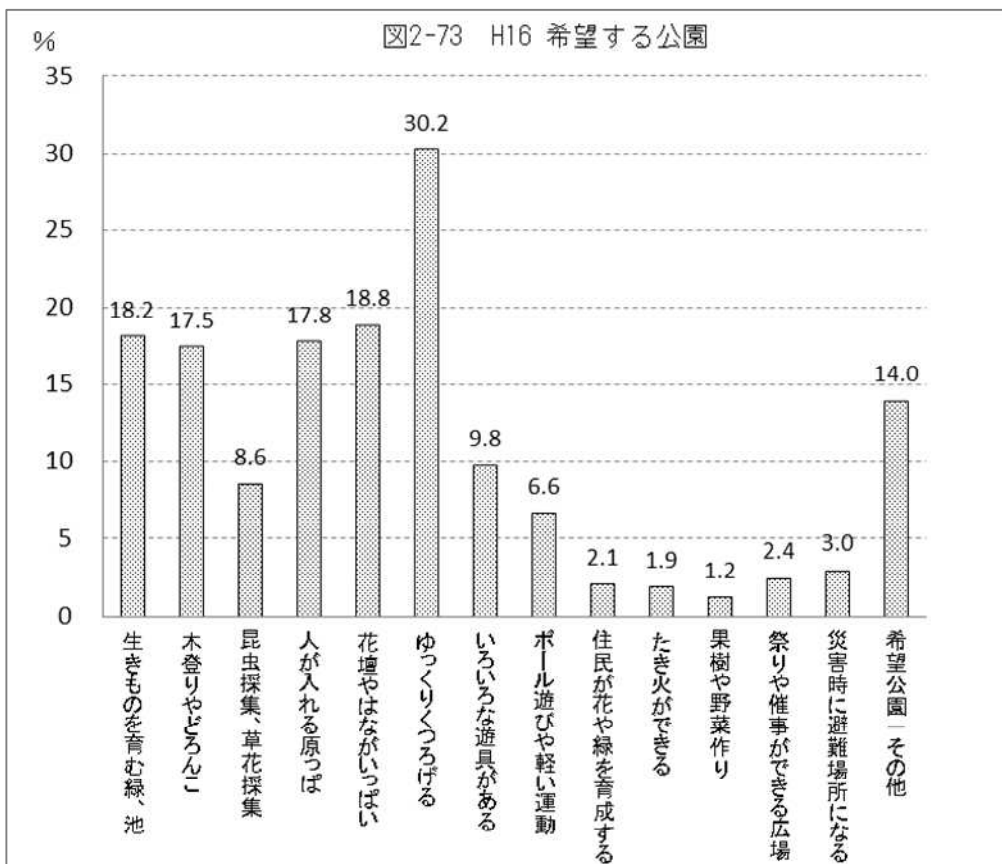
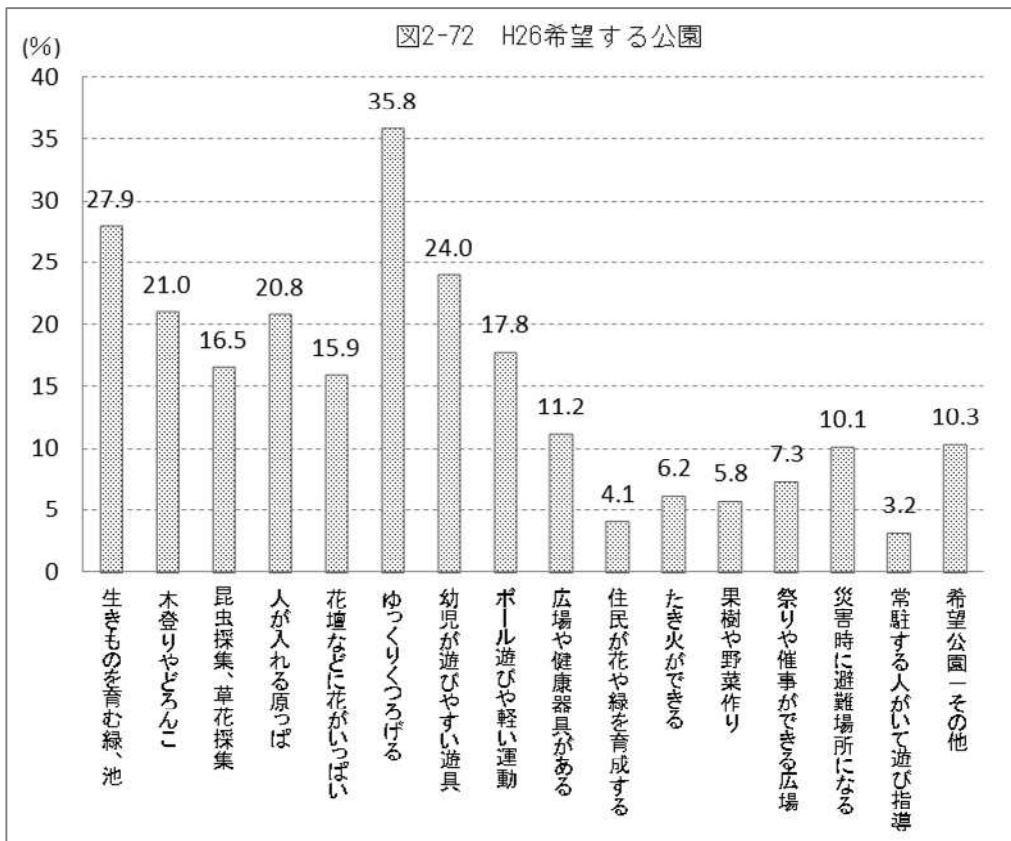
H 1 6 (N : 573)		➡	H 2 6 (N : 466)	
・ゆっくりくつろげる(173)	30.2%		・ゆっくりくつろげる(167)	35.8%
・花壇や花がいっぱい(108)	18.8%		・生きものを育み緑・池(130)	27.9%
・生きものを育み緑・池(104)	18.2%		・幼児が遊びやすい遊具(112)	24.0%
・人が入れる原っぱ(102)	17.8%		・木登り、どろんこ遊び(98)	21.0%
・木登り、どろんこ遊び(100)	17.5%		・人が入れる原っぱ(97)	20.8%

* H26 年度の回答では複数回答の方が多く、割合も増えています。

2) 希望する公園（自由記述）

自由記述の特徴的な回答内容としては、「規制が無く、自由に利用できる広場」が挙げられる。これは、ボール遊びやどろんこ遊びなど、かつての“原っぱ”のような公園利用をもとめるものであると考えられる。

- 犬と一緒に遊べる公園 - ドッグラン
- 自然とふれあえる公園 - 季節の花やいきもの
- 子供が自由に遊べる公園 - 自由な広場、規制の無い広場、いろいろな運動ができる
- 幼児向けの遊具が揃っている公園



(8) 改修公園の評価

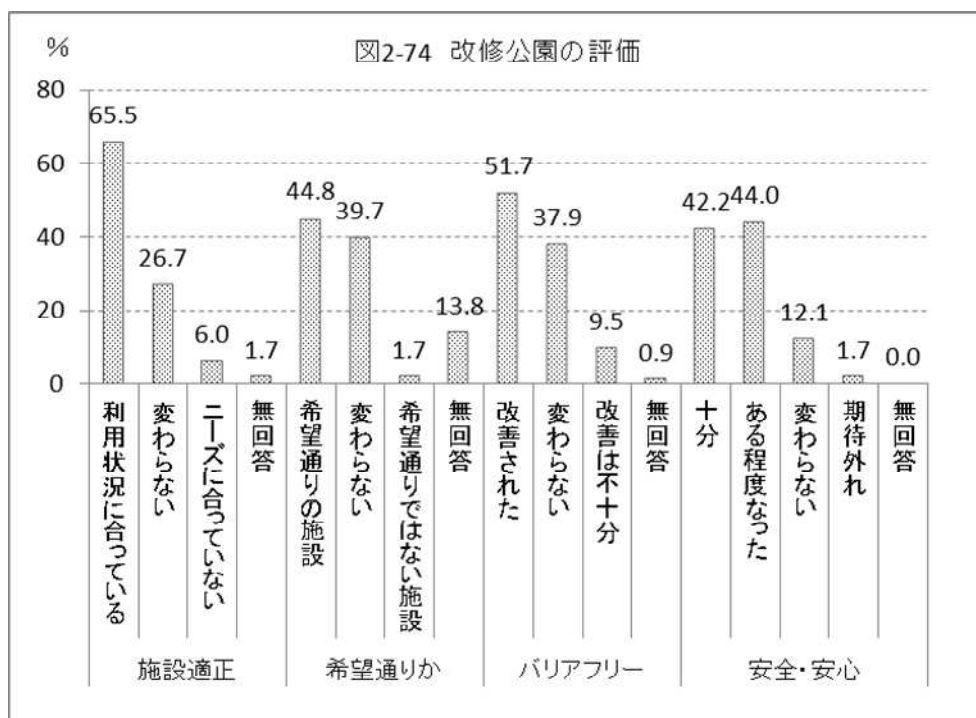
改修公園については、前回調査からの 10 年間で大規模な改修工事又は改良工事が実施された公園を対象に、改修工事の事業評価の把握を行った。利用意向調査の回答数 466 のうち、改修公園でじしされたものは、116 であった。

「施設適正（新しい施設は利用状況に合ったものになっているか）」は、「利用状況にあっている」が 65.6%で最も多くなっているが、「ニーズに合っていない」という評価が 6.0%ある。

「施設内容が希望通りか」については、「希望通り」が 44.8%、「変わらない」が 39.7%となっている。

「バリアフリー」では、「改善された」が 51.7%で、最も多くなっているが、「変わらない」と「不十分」を合わせると 47.4%になる。

「安心・安全」では、「十分」が 42.4%、「ある程度なった」が 44.0%と肯定的評価が多くなっている。



(9) 回答者の属性による傾向

アンケート調査の回答者の属性データを以下に示す。

1) 性別

表 2-55 アンケート調査回答者の性別

	男 性	女 性	無回答	合 計
平成 16 年	239 人 (41.76%)	322 人 (56.2%)	12 人 (2.1%)	573 人
平成 26 年	174 人 (37.3%)	276 人 (59.2%)	16 人 (3.4%)	466 人

2) 年齢別

今回の調査では、「成人」を 20～30代と 40～50代に区分して統計を取ったが、「小学生」が 4.8%減少しているが、全体の割合としては大きな差異は無い。

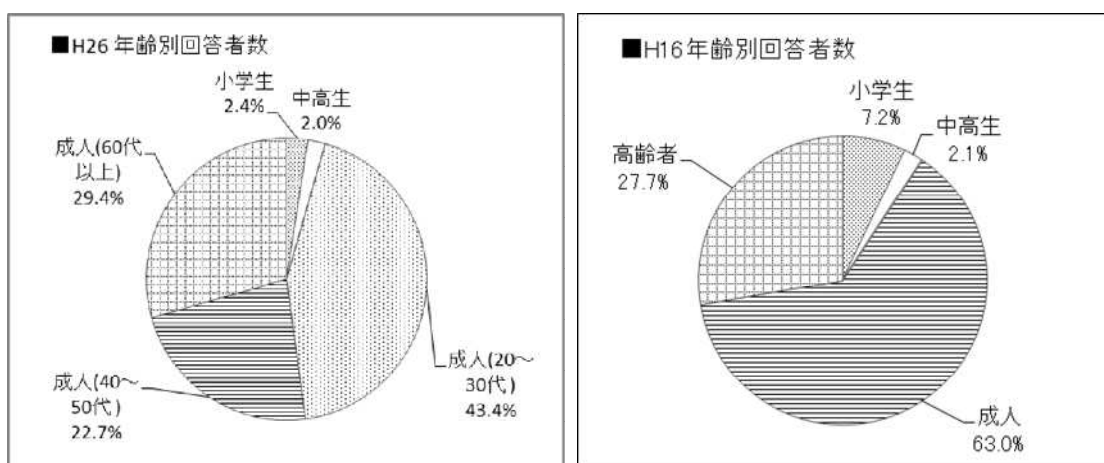


図 2-75 年齢別回答者数

3) 居住地

居住地は、遠方からの来園者も詳細に区分することとし、3区分を5区分とした。割合としては、「区内」の割合が、7.8%減少し、「隣接区」の割合が 4.6%増加した。

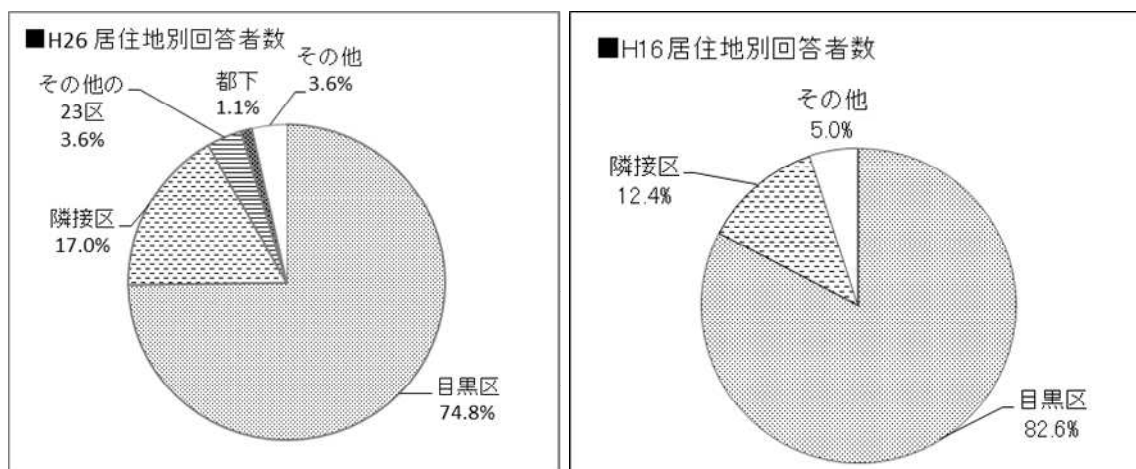


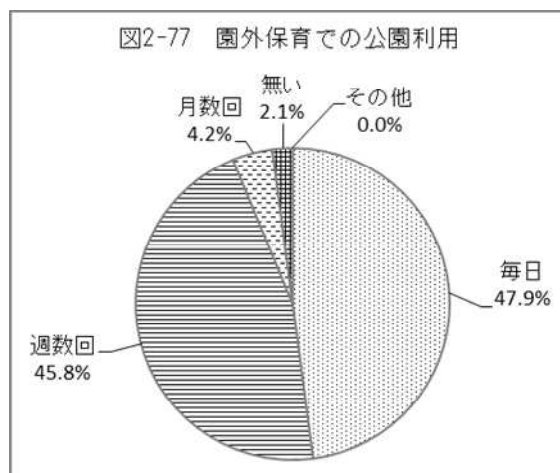
図 2-76 居住地別回答者数

3. 保育所等の公園利用実態及び意向調査

(1) 調査結果

1) 園外保育での公園利用

園外保育で公園を利用する頻度は、「毎日」が47.9%で、最も多く、「週数回」が45.8%となっており、9割以上の保育所等の子ども達が日常的に利用している状況といえる。



2) 利用する公園と利用状況 (N:49)

利用する公園

最も多く利用されている公園は、「林試の森公園」で6、次いで「区民キャンパス公園・広場」5、「駒場野公園」5となっている。

これらの公園は、区内でも大きな公園で、広場や遊具も設置されており、利用内容が選択できる施設である。

一方、公園面積383㎡の「中根ねむの木公園」や2,123㎡の「伊勢脇公園」など、小規模な公園も利用されている。

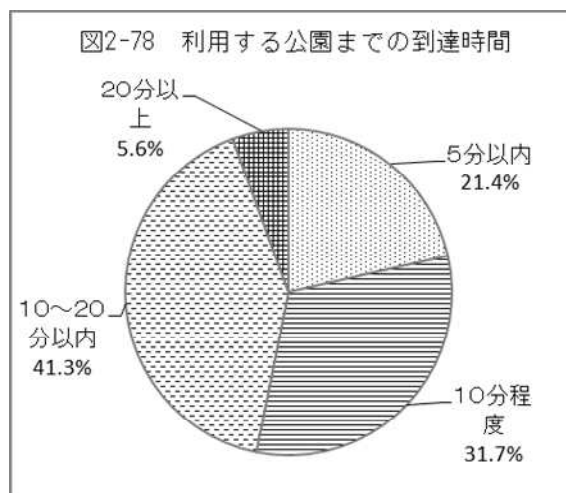
利用者数調査では、平日に合計で53の公園が利用され、述べ90の保育所等が利用していることが確認された。また、休日は、1公園のみを、1園が利用している。

施設名称	面積(㎡)	利用する保育園等
林試の森公園	120,763	6
区民キャンパス公園・広場	51,000	5
駒場野公園	39,025	5
中根公園	8,271	4
中目黒公園	22,074	4
伊勢脇公園	2,123	4
小山台公園(品川区)	4,274	4
駒沢公園	413,311	3
すずめのお宿緑地公園	7,494	3
中根ねむの木公園	383	3
菅刈公園	20,049	3
碑文谷公園・運動	25,716	3
碑文谷公園・池	17,818	3

利用公園までの到達時間

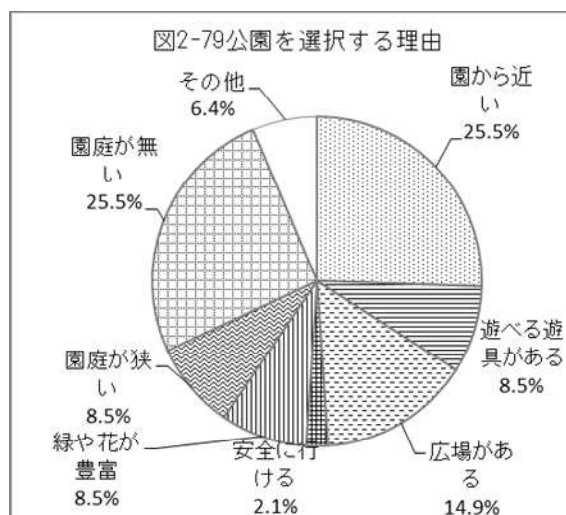
利用する公園への到達時間は、「10～20分」が最も多く41.3%を占め、次いで「10分程度」31.7%となっている。

また、「20分以上」を掛けて利用する場合も5.6%あり、遠方まで移動して公園を利用している状況である。



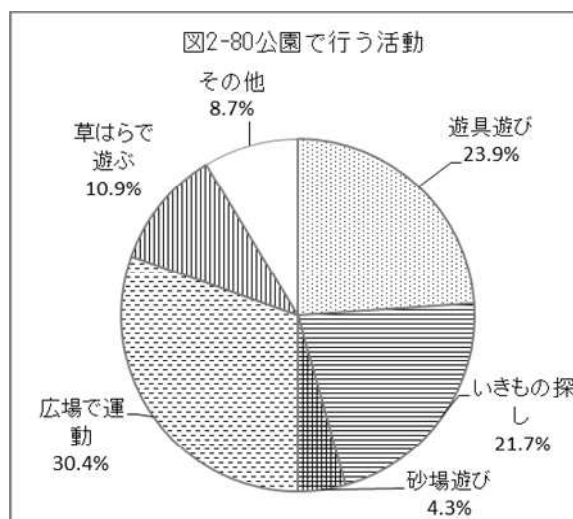
3) 公園を選択する理由

公園を選択する理由は、「園から近い」と「園庭が無い」が25.5%で最も多くなっている。次いで「広場がある」が14.9%となっている。



4) 公園で行う活動について

公園で行う活動では、「広場で運動」が30.4%で最も多く、次いで「遊具遊び」が23.9%、「生きもの探し」が21.7%となっている。

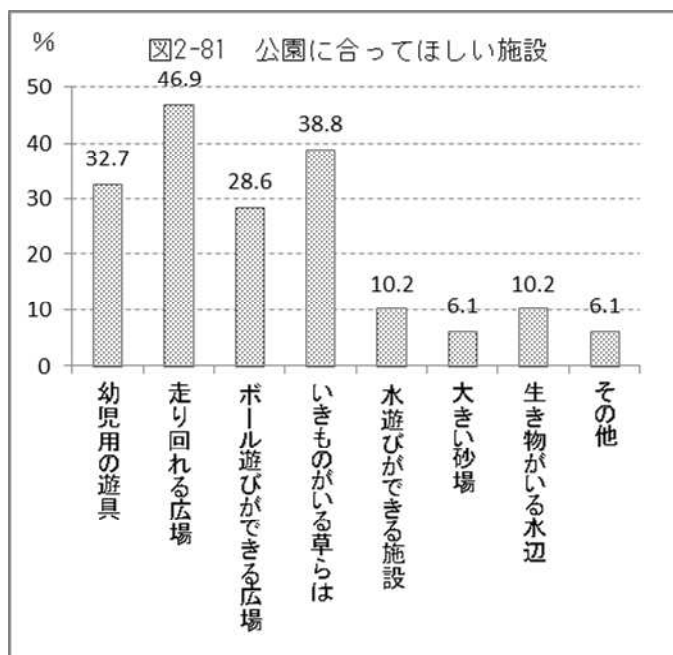


5) 利用施設と年齢

利用公園と年齢では、動きが大きく異なる3歳以下と4歳以上が、同じ施設を同時に利用することが無く、年齢別に、施設と時間を選択しながら利用している状況である。

6) 公園にあって欲しい施設（複数回答）

公園にあってほしい施設では、「走り回れる広場」が46.9%で最も多く、次いで「いきものがある草はら」38.8%、「幼児用の遊具」32.7%となっている。



7) 自由記述

自由記述では、「自然や生き物に触れられる公園」と「自由に運動のできる、ボールが使える広場」が、要望の高い要素となっている。一方、他の保育所等との競合や、公園周辺住民等の利用への理解などが、利用運営面で改善すべき要素となっている。

表 2-57 自由記述

管理項目	要望の内容	回答数
施設改善等への要望	自然や生き物に触れられる公園	11
	自由に運動のできる、ボールが使える広場	10
	水遊びや木登りができる公園	5
	いきものがある草むらのある公園	4
	3歳以下の幼児が使える遊具	9
	4～5歳が利用できる遊具	3
	綺麗なトイレのある公園、オムツ交換できる施設	6
	安全に利用できる公園	5
維持管理への要望	タバコの吸い殻、フン、ガラス等の処理を頻繁に	6
	砂場を頻度高く清掃して欲しい	3
	虫の駆除	2
利用運営への要望	プレイリーダーのいる公園	3
	利用マナーの改善（犬のゴミ、タバコなど）	3
	苦情を受けずに子供が遊べる公園	2
	多くの保育園等が競合することがある	2

(2) 調査結果の考察

アンケートの結果、公園での利用者数調査、利用者意向調査の結果及び現地での利用状況の観察をもとに以下のように考察する。

1) 利用実態

利用状況

保育所等では、徒歩 20 分程度までの時間をかけて、日常的に公園を利用しており、広場での活動、遊具遊びなどを主に行っている。利用時には、一般の幼児連れの親子や、他の園外保育と競合するときもあり、公園全体が混雑する状況が発生し、満足に利用できない場合もある。

また、利用意向調査では、「公園周辺の住民等から、「子供の声がうるさい」などといわれることもある」という回答もあり、公園利用にあたっては、近隣への配慮も必要になる。

施設の選択

園外保育に利用する理由としては、園庭が無い場合や園庭が狭い保育所等が多く、選択の第一の理由になっている。選択する施設は、「近い」、「広場がある」、「遊具がある」など、利便性と、保育所等内に整備できない屋外施設を公園で補っている状況である。

2) 施設、維持管理等への要望

求めている施設

最も求めている施設は、「自由に利用できる広場」であり、区内のほとんどの公園で利用が規制されている「ボール遊び」ができれば、より良いという意見が多くなっている。

遊具への要望は、「年齢に応じた遊具」ということで、3歳以下、4～5歳、小学生以上、と体格、動きに応じた遊具が求められている。

利用管理

利用管理面では、「その他」の回答の中で、「他の保育所等とのバッティングや、団体で利用した場合には、結果として一般利用者が利用しにくい状態を作ってしまった」ことが課題となっているという回答も見られる。改善方向への意見として「近接する保育所等間で、利用する公園、及び利用時間を調整し、施設間の競合を避けるとともに、一般利用者が利用できる時間を確保するような利用管理が必要になってきている」という意見がある。

施設管理

施設管理では、安全の確保が重要であり、砂場のガラス片除去、遊具、柵等の破損修繕が求められ、遊具周りの安全確保が最も要求されている。